

「アーケード内部の温熱環境の実態把握」

2000.8.30

居住環境学専攻

講師・辻原万規彦

背景と目的

中心市街地の商店街でよく見られるアーケードには、様々な役割がある。例えば、

- 1) 雨を防ぎ、雨天時でも安心して通行できるようにする。
- 2) 商店街としての統一感を醸し出す。
- 3) 強い日射を除け、暑い夏でも、涼しく通行できるようにする。
- 4) 都市景観を形成する。

などが挙げられる。

従来、1)や2)の役割については、よく語られているが、3)や4)については、あまり注目されていない。特に、熊本をはじめとする九州や瀬戸内地方では、もともと3)の役割が強く求められていた。しかし、現在では、アーケード内部の「あつさ、さむさ」を、考慮して建てられているアーケードはほとんどない。

そこで、熊本市の中心部のアーケード街で、小型の温湿度計数台を用いて、その内部の温熱環境(「あつさ、さむさ」)の実態を把握することにする。また同時に、通行人の方々にアンケート調査も行い、人々がどのように感じているかを把握する。これらの調査をもとに、アーケードによって、どのように外部環境が緩和されているか、どうすれば外部環境を緩和できるか、を考える。

あわせて、日頃、あまり気にしていないアーケードをじっくりと観察する。

日程

- ・ 8月30日(水) 3・4限目、講義室5(講義棟1階)にて
フィールドワークのねらい、測定の概要と手順の説明。班分け。
- ・ 9月1日(金) (8月31日が雨天のため、変更)
熊本市下通商店街にて測定
筆記用具、時計(腕時計など、秒針があるもの)を持参のこと
- ・ 9月1日(金) 4・5限目、講義室5(講義棟1階)にて(8月31日が雨天のため、変更)
各班のデータの入力。交換。レポート作成のヒントの説明。
各自、中央コンピュータ室からパソコン1台を借りてくること。